



特殊詐欺被害に遭いやすい高齢者の心理特性を研究
うえの だいすけ
現代社会学部 現代社会学科 准教授 上野 大介
高齢者の認知機能と詐欺被害の関連を明らかに
啓発アプリや詐欺電話の自動切断システムの開発に協力

コメントできる
研究領域

特殊詐欺

消費者被害

感情神経心理学

高齢者の幸福感

京都女子大学は、教員の研究活動や社会連携など“社会のための女子大学”の姿をお伝えするニュースレターを発信しています。今回は、感情神経心理学を専門とし、高齢者の特殊詐欺被害に遭いやすい心理特性の研究に取り組む現代社会学科の上野大介准教授をご紹介します。

■ 京都府警察本部や消費者庁と連携し、特殊詐欺被害に遭いやすい高齢者の心理特性を調査。

上野准教授は、高齢者の認知機能について、加齢によって身体や感情が意思決定にどう影響しているかを研究しています。2018年以降は、京都府警察本部に協力し、特殊詐欺の被害に遭った高齢者と遭ったことのない高齢者の社会的背景や生活状況、心理特性などの調査をしました。その結果、被害に遭っている人は、独居・外出頻度が低い・詐欺被害に対する自信が高い、電話や見知らぬ訪問者に迅速に対応していることなどが分かりました。2020年からは、消費者庁の国際消費者政策研究センターの客員主任研究官にも任命されており、徳島県でも同様の調査研究を行っています。

上野准教授は、詐欺被害に遭いやすい高齢者には注意喚起だけでなく録音機能や詐欺を検知する携帯電話の配布や固定電話への防犯機能設置などの具体的な対策を行い、周囲の助けを受けやすい環境作りが必要と考えています。

■ 犯人目線で詐欺を体験する啓発アプリや、詐欺電話の自動切断システムの開発に協力。

上野准教授は、前任校から京都府警察本部の特殊詐欺の被害防止啓発アプリの監修を行っています。アプリは、犯人目線で詐欺がどんな風に行われるかを再現しており、2022年から京都府警察本部特殊詐欺対策室が行う地域の防犯教室で使用されています。「詐欺犯は電話をかけている最中に、雑談をしますか？しませんか？」などの問題が出され、どういう手口で詐欺犯が迫ってくるか、高齢者に体験してもらうことができます。これは心理療法のカウンセリングでも使われる手法で、高齢者は自分が詐欺犯からどう見られているかを認識することができます。

また、民間企業及び消費者庁と共同で、かかってきた電話から詐欺に関連するワードを言語解析し、自動切断するシステムの開発にも携わり、実用化を目指しています。

■ 防犯面でも健康面でも、高齢者にとって重要なのは、困ったときに頼れる人を見つけること。

上野准教授は、高齢者の身体内部に対する感覚（内受容感覚）と意思決定の関連についても研究しています。「ドキドキしている」「お腹に違和感がある」「肺が詰まる感じがする」など身体内部の変化に敏感な人は、身の回りの状況判断に慎重で、詐欺被害にも遭いにくいのではないかと考察しています。

上野准教授は、「高齢者の方は、防犯や健康などあらゆる面で周りの人に迷惑をかけたくないという思いが強いが、過信せず、困ったときに頼れる人を見つけてほしい」と呼びかけています。

上野大介（うえの・だいすけ） Profile

略歴 1982年生まれ。2013年9月大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程 単位取得満期退学。博士(人間科学/大阪大学)。甲子園大学心理学部現代応用心理学科助教、京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学助教などを経て、2024年4月より現職。2020年12月より、消費者庁 新未来創造戦略本部 客員主任研究官。

論文 『Individual differences in interoceptive accuracy are correlated with salience network connectivity in older adults』 (共著/2020年/Frontiers in Aging Neuroscience)

『特殊詐欺等の消費者被害における心理・行動特性』 (共著/2023年/消費者庁新未来創造戦略本部国際消費者政策研究センター)

著書 『高齢期の発達科学(発達科学ハンドブック第12巻)』 (共著/2024年/新曜社)

< 本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先 >

- ・ 京都女子大学入試広報課 岡橋・竹縄 TEL: 075-531-7054 FAX: 075-531-7222
- ・ 京都女子大学広報デスク (プランニング・ポート内) 福嶋・井上 TEL: 06-4391-7156 FAX: 06-4393-8216
- ・ 京都女子大学HP <https://www.kyoto-wu.ac.jp>